

編集後記

◆ここ数カ月、その発言が最も注目を浴びている経営者はキャノンの賀来龍三郎会長ではあるまいか。倫理国家構想、遷都・道州制の主張に加えて、「社会党が幼稚園児なら自民党は墮落した大人だ」と思っていた。それが最近の自民党は中学生、いや小学生だ、「土地問題の解決には、企業が既得権を捨てて生活者の利益を図らなければならない」と、齒に衣着せぬ発言は多くの人々の共感を呼んでる。二年近く前ではあるが、国際経営研究所開設記念フォーラムにおける同氏の基調講演を熟読いただきたい。

◆その賀来氏とは国際会議で何度も同席したが、各国の代表にこれだけ深い感銘を与える日本人も珍しい。外国語を操ったり、派手な振舞いで注目を浴びる人ではないだけに、言葉や国境の壁を越えて共感を得るのはなぜか、興味深い。学ぶべきは、いつ、いかなる相手に対しても変わらない真摯な姿勢である。さらに自分の考えを明確に持ち、それを簡潔・明瞭に伝えることができることであろう。

それを支えるのは、年間一万頁が目標という同氏の読書量ではあるまいか。現役の企業経営者がこれだけの読書を続けていることには、正直驚きを禁じ得ない。

◆不透明の時代に何より必要とされるのは歴史的な視座であるが、豊富な読書量が物を言うのも、やはり歴史的な知識・視点であろう。最近外務省がアメリカで開いた会議の席上、「若い駐在員のなかにはパールハーバーを知らない者がいる」という指摘があったという。そうした歴史に対する無知が反日感情を高めているというのである。ハーバード大学でも教授が太平洋戦争について話したところ、アメリカ人学生から「日米どちらが勝ったんですか」と質問があったという話も耳にした。「昭和も遠くなりけり」ということであろうか。

◆ただ、来年の一月二日（アメリカでは七日）には「真珠湾攻撃五〇周年」を迎える。「歴史」が「危険な曲がり角にきた日米関係」にどういう影響を与えるのか。日本の政治がそうした課題と全く無縁であることは恨めしいが、教育者・研究者がどういう役割を果たせるのか、これも自問しなければなるまい。（松岡）

学校法人 神奈川大学国際経営研究所

所長 箕輪成男

出版委員 大場恒明

関口博正

丹野勲

松岡紀雄

国際経営フォーラム 第一号 ISSN 0915-8235

© 1990 by Kanagawa University

一九九〇年三月三〇日発行（年一回発行）非売品

編集 国際経営研究所出版委員会

発行人 箕輪成男

発行所 学校法人 神奈川大学国際経営研究所

〒二五九一一二 平塚市土屋二九四六

電話（〇四六三）五九一四一一（代表）

FAX（〇四六三）五八一九六八八

印刷 株式会社 精興社

〒一〇一 東京都千代田区神田錦町三一九

◆本誌ご希望の方は、送料実費として切手二一〇円を添えて、右記国際経営研究所出版委員会宛お申し込みください。在庫切れの節はご容赦ください。

◆本誌掲載記事・論文の一部または全部の転載は、事前に著者または出版委員会から直接書面による許可を得た場合に限られます。